

タカラバイオ株式会社

東証プライム・4974

会社説明会

2023年12月13日

タカラバイオ株式会社

設立 : 2002年4月1日設立

本社 : 滋賀県草津市
野路東七丁目4番38号

代表者 : 代表取締役社長
仲尾 功一

従業員 : 1,847名(連結)
804名(日本) ※

連結子会社 : 8社

上場市場 : 東証プライム(4974)



本社事業所

タカラバイオグループの原点は 国産初の遺伝子工学研究用試薬の開発

1925年 寶酒造株式会社 (現宝ホールディングス株式会社) 創立
1967年 寶酒造株式会社 中央研究所設立



1979年 **国産初の遺伝子工学研究用試薬を発売**
1988年 PCRシステムの国内独占販売権を取得



2002年 タカラバイオ株式会社設立
2004年 東証マザーズ上場
2014年 遺伝子・細胞プロセッシングセンター稼働
2015年 滋賀県草津市へ本社機能を移転：新研究棟完成
2016年 東証一部へ市場変更
2020年 遺伝子・細胞プロセッシングセンター 2号棟稼働
2022年 東証・新市場区分「プライム市場」へ移行



写真 (上) 寶酒造中央研究所 (1970年頃) (下) 研究用試薬の製造の様子 (1980年代)

2



世界中のバイオ研究者が顧客 技術基盤かつ収益基盤である試薬事業/機器事業

試薬事業



一般研究用試薬



体外診断用医薬品

遺伝子を増幅する酵素など約10,000品目の
一般研究用試薬、体外診断用医薬品
(数千~数十万円~)

機器事業



PCR装置



自動核酸精製装置



シングルセル解析システム

遺伝子増幅する装置、
細胞を解析する装置など
(数十万~数百万円~)

3



1988年：PCRシステムの国内独占販売権取得 1993年：特許ライセンス取得し自社製造開始

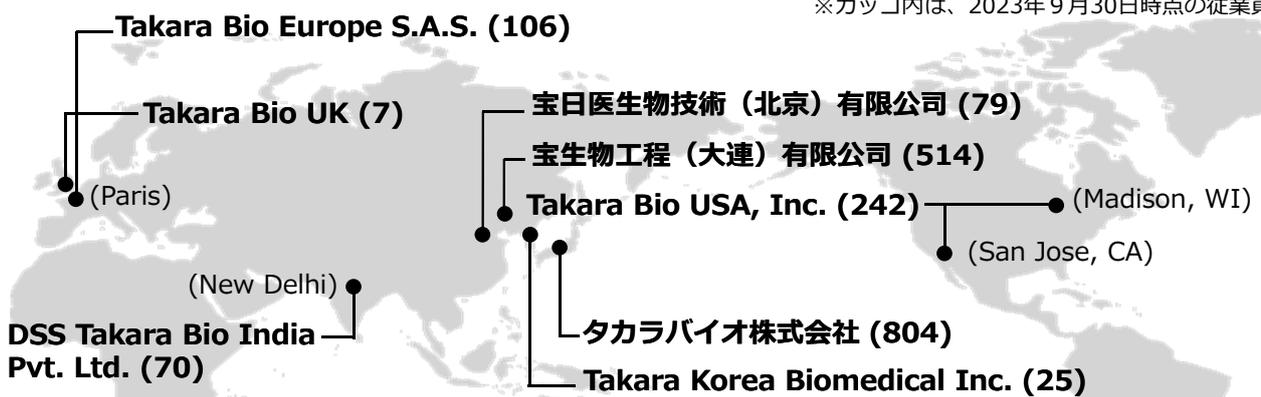


④ タカラバイオ製品カタログより



中国/日本に加え印度/米国/欧州に製造拠点を展開 全世界に販売網を構築：グローバル体制

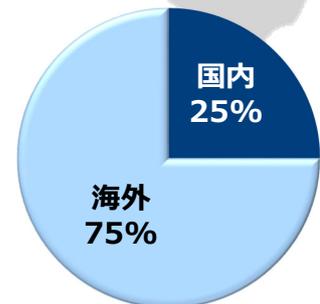
※カッコ内は、2023年9月30日時点の従業員数



国内/海外
試薬売上の状況



2004年度
売上高 65億円



2023年度予想(11/9)
売上高 327億円

⑤

独自の創薬基盤技術を活用し、飛躍的成長を目指す CDMO事業/遺伝子医療事業

CDMO(受託)事業



再生医療等製品関連受託



遺伝子解析/検査受託

研究者（顧客）からサンプルを預かり、得られたデータ産物を納品。製薬企業などから依頼を受けてバイオ医薬品の製法開発から製造までの工程を行う（数十万～数千万円～）

遺伝子医療事業



RetroNectin®



mRNA
製造用酵素

遺伝子治療薬やmRNA薬の製造に用いられる製造補助剤（数十万円～数千万円～）

6

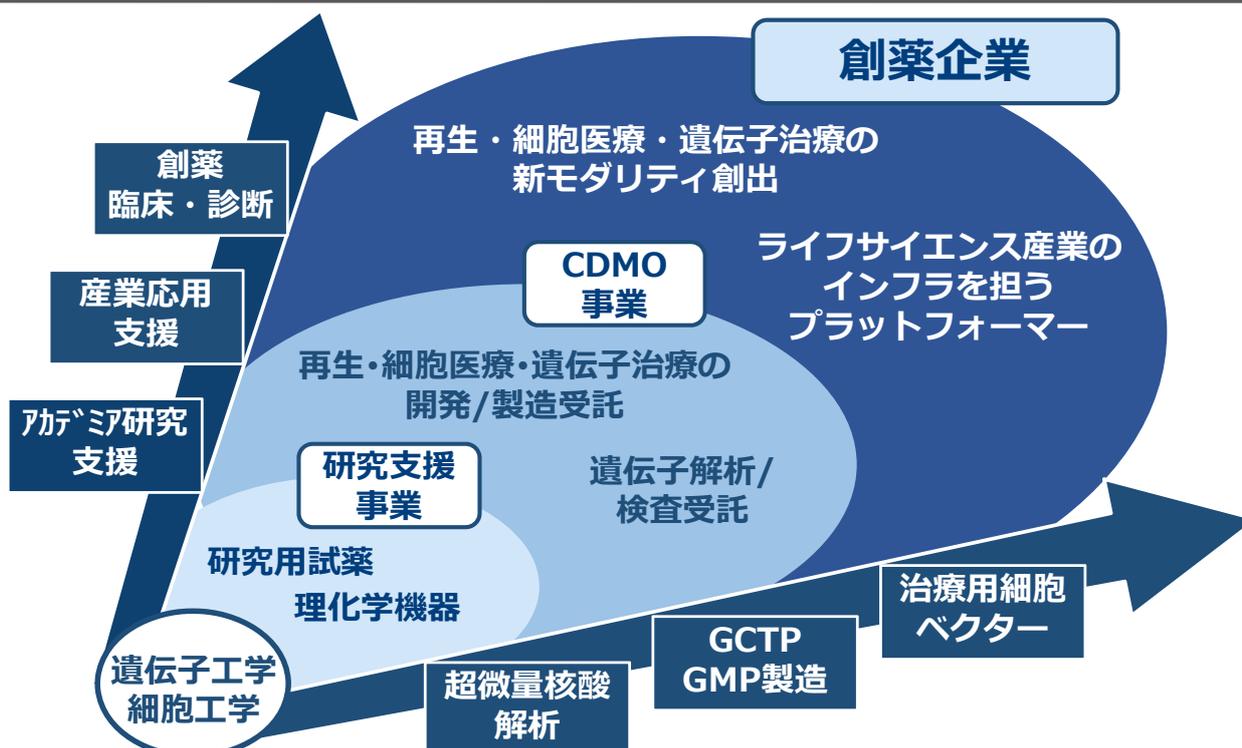
CDMO：契約ベースでバイオ医薬品などの開発製造を受託するビジネスモデル



試薬事業/CDMO事業で培った
技術・収益をもとに
遺伝子治療の
社会実装を目指す

遺伝子・細胞の
解析技術屋から
遺伝子・細胞を
新モダリティとして
創造する
創薬企業へ

ライフサイエンス産業のインフラを担う グローバルプラットフォーマーを目指す



8

Takara

2023年度 連結業績予想 (11/9)

(百万円)

	2023年度 通期予想 (11/9)	前期比		前回予想比 (5/11)	
		増減	増減率	増減	増減率
売上高	45,550	▲32,642	▲41.8%	▲7,800	▲14.6%
売上原価	17,399	▲15,977	▲47.9%	▲1,916	▲9.9%
売上総利益	28,100	▲16,664	▲37.2%	▲5,883	▲17.3%
販売費及び 一般管理費	25,100	+876	+3.6%	▲883	▲3.4%
営業利益	3,000	▲17,541	▲85.4%	▲5,000	▲62.5%
経常利益	3,200	▲17,482	▲84.5%	▲5,000	▲61.0%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	2,000	▲14,012	▲87.5%	▲3,500	▲63.6%

9

Takara

事業成長戦略：ライフサイエンス産業のインフラを担う グローバルプラットフォーマーを目指す

新たな市場・
顧客への
独自製品・
サービスの
提供



10



独自の創薬基盤技術を活用し CDMOサービスにより競合他社との差異化を図る

C D M O



- 独自のプラットフォーム技術や臨床開発プロジェクトの経験を、クライアントの開発シーズへ提供できるのが当社の強み
- 将来の開発(D)・製造(M)を見据え、開発初期からクライアントに伴走する包括的支援サービスを提供

クライアントの
標的抗原/
治療用遺伝子

当社基盤技術

	in vivo遺伝子治療		ex vivo遺伝子治療	
有効性・安全性 向上技術	CereAAV™	SonuAAV™	siTCR®	JAK/STAT ・CAR*
高品質・高効率 製造技術	AAV 大スケール製造	LV 大スケール製造	RetroNectin®法	Spo-T™法

11

CDMO: Contract Development and
Manufacturing Organization

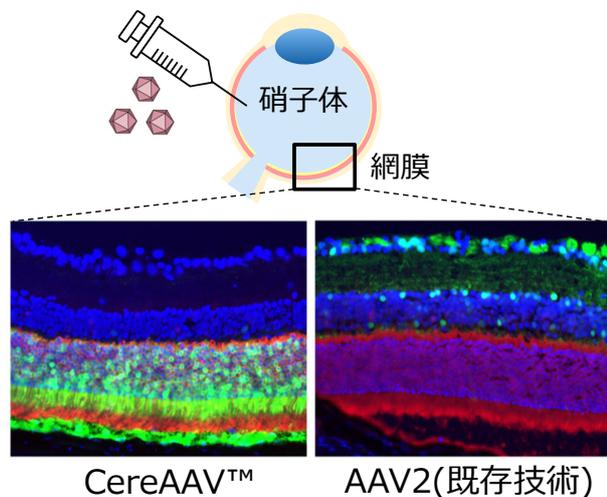
* JAK/STAT技術を用いたTBI-2001は
カナダ医師主導臨床試験が進行中



組織・臓器特異的な遺伝子導入技術

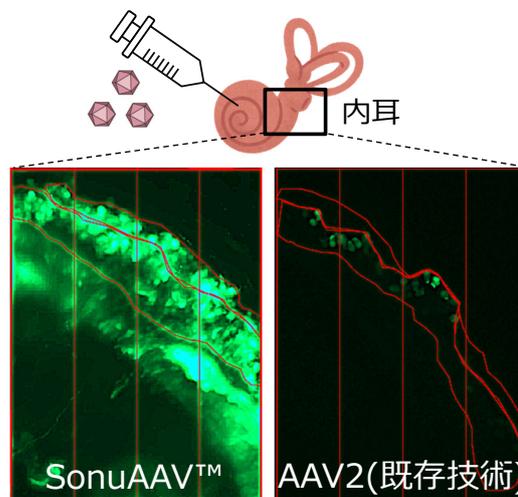
CereAAV™ : 脳や網膜、SonuAAV™ : 内耳組織

CereAAV™ マウス硝子体内投与による評価*1



視細胞が多く含まれる網膜層への遺伝子導入に優れる (緑色)

SonuAAV™ マウス内耳への投与による評価*2



内耳支持細胞への遺伝子導入に優れる (緑色)

12

*1 東京都医学総合研究所 原田高幸博士、イクトーグー・行方和彦研究員らとの共同研究データより
*2 順天堂大学 神谷和作 准教授との共同研究データより



Spo-T™法 : 高品質なCAR-T細胞の短期間製造法を開発 製造コスト低減と有効性向上の実現を図る

従来法 : 約2週間



Spo-T™法 : 約2日

リンパ球
活性化・拡大培養
▶ CAR遺伝子導入

CAR-T細胞

分化・疲弊が進み
抗腫瘍効果が低減

当社独自技術の組み合わせ :

- RetroNectin®刺激によるリンパ球活性化・拡大培養
- レンチウイルスベクターシステム

従来法に比べ、疲弊度が低く
増殖能や抗腫瘍効果の高い
CAR-T細胞が得られる

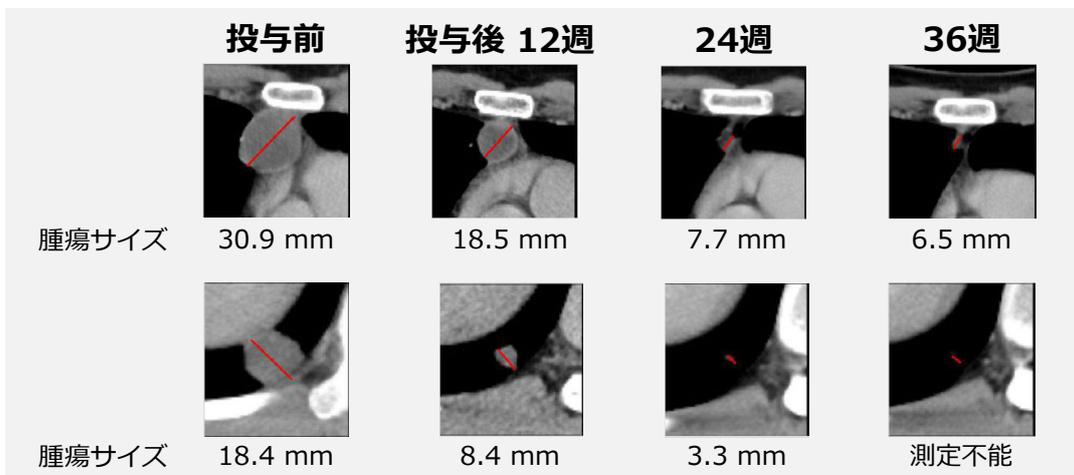
13

Spo-T™: Short period operation for T-cell production



siTCR[®] : TCR-T療法の有効性・安全性の向上を実現 TBI-1301(Mip-Cel[®])は国内製造販売承認申請準備が進行中

- TBI-1301 滑膜肉腫に対する国内治験(第 I / II 相臨床試験)結果*の一例
奏効率 : 50% (8例中4例) 全生存期間中央値 : 650日



- 先駆け審査指定制度の下、PMDAによる品質に関する事前審査が進行中
- 適応拡大を視野に開発を推進

*米国臨床腫瘍学会(2023年6月)発表資料より抜粋、Clinical Cancer Research誌(2023年10月発行)に論文掲載

14

TBI-1301の国際一般名称 : mipetresgene autoleucel (略称 : Mip-Cel[®])



CGCP 3号棟新設計画 既存棟を上回る大規模製造用“デュアルユース”施設



「ワクチン生産体制強化のためのバイオ医薬品
製造拠点等整備事業」：経済産業省
令和3年度補正予算に採択

建築面積 : 約 2,650 m²
延床面積 : 約16,400 m²
構造 : 地上7階建免震構造
着工 : 2024年4月 (予定)
竣工 : 2027年6月 (予定)

有事はワクチンを製造、平時はCDMO/創薬事業へ活用

補助金採択事業	平時に製造する品目	有事に製造する品目
1. ワクチン製造拠点	各種 遺伝子治療用ウイルスベクター mRNA医薬品原薬	ウイルスベクターワクチン mRNAワクチン原薬
2. 部素材等の製造拠点	RetroNectin [®] , mRNA製造用酵素などの遺伝子治療薬製造補助剤	mRNA製造用酵素

15

CGCP : 遺伝子・細胞プロセッシングセンター



将来の見通しに関する注意事項

資料中の当社による現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

お問い合わせ先：広報・IR部
E-mail: bio-ir@takara-bio.co.jp

16



参考資料

2023年度 カテゴリー別売上高予想（修正）

（百万円）

	2023年度 通期予想 （修正）	前期比		前回予想比（5/11）	
		増減	増減率	増減	増減率
試薬	32,792	▲33,133	▲50.3%	▲5,561	▲14.5%
機器	1,314	▲61	▲4.5%	▲705	▲34.9%
受託	8,652	+451	+5.5%	▲1,261	▲12.7%
遺伝子医療	2,740	+100	+3.8%	▲272	▲9.0%
売上高合計	45,500	▲32,642	▲41.8%	▲7,800	▲14.6%

17



経営指標等の推移

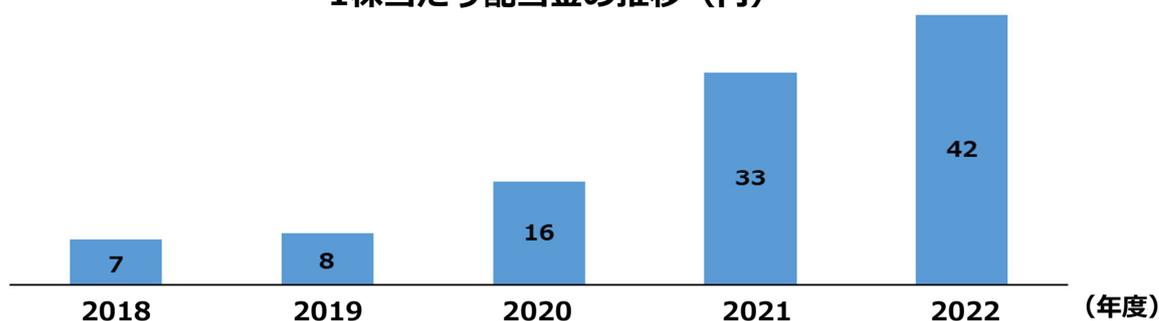
(百万円)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度 ^{注1}
売上高	34,565	46,086	67,699	78,142	45,500
営業利益	6,274	13,952	28,902	20,541	3,000
経常利益	6,347	14,159	28,459	20,682	3,200
親会社株主に帰属する当期純利益	3,819	9,547	19,849	16,012	2,000
研究開発費	3,869	5,545	6,109	8,575	8,810
設備投資	5,365	8,897	13,180	6,516	16,000
従業員数	1,485	1,539	1,666	1,793	1,847 ^{注2}

⑱ (注1)11/9予想, (注2) 9/30現在



株主還元について

1株当たり配当金の推移 (円)



2023年度期末配当予想：17円

配当方針

タカラバイオは、研究開発活動を積極的に実施していくため内部留保の充実に意を用いつつ、株主の皆様への利益還元についても重要な経営課題と位置づけ、経営成績および財政状態を総合的に勘案して利益還元を実施していくことを基本方針としています。2023年度より、連結財務諸表における特別損益を加味せず算出された想定当期純利益の35%を目途としています。